

岡崎市で営巢中のササゴイコロニー保全について

日本野鳥の会愛知県支部会員 戸松 秀仁

現在、岡崎市市街地のほぼ中心に位置する岡崎市康生町にてササゴイが営巢している。当地は10年以上前から営巢をしており、近隣の河川や池をササゴイが舞う姿は馴染み深い光景となっている。しかし、近年の開発や人の輻輳による野鳥の減少と同じように当地のササゴイも今後安定な生活ができるとは決して言えないと言える。今後も岡崎でササゴイが安心して暮らせるように、人と鳥が共存できる環境づくりを作り上げていくことが望まれる。

1.ササゴイの生態



乙川にて。オイカワを捕まえたササゴイ。

ペリカン目サギ科に分類される。全長約40～52cm。5から9月頃に夏鳥として本州以南に渡来する。河川や湖沼などで主に魚類を捕食する。神社林などで小規模のコロニーを作り、繁殖する。愛知県では平野部の河川周辺で見られるが、数は多くない。

2.岡崎市における生息状況

本市においては5月頃、夏鳥として乙川下流から中流に生息する。時折、南公園や岡崎公園などの周辺池などにも飛来する。河川の浅瀬で鮎などの魚を捕獲するところが観察される。本市における繁殖場所は康生町の2箇所が確認されており、本市のササゴイのコロニーは10年以上前から知られている。

かつてはショッピングセンター「シビコ」の西広場に営巢が集中しており、ここ一箇所繁殖していた。その後市民との話し合いの末、一部を除いて木を切ることになった。その後は周辺に繁殖地を拡散させている。近年はシビコ西広場、籠田公園で繁殖しており、かつては岡崎公園でも数番繁殖していたが、現在は確認されていない。

岡崎市のレッドデータブックの準絶滅危惧種に指定されている。

3. ササゴイの繁殖状況

前述したように現在、本市市街地中心部でササゴイが繁殖しているがこのようなことは本市に限らず、全国的に確認されている。

県内では営巣木伐採などで確認されなくなったが、名古屋市港区庄内川や新城市豊川などでも営巣されていた。

県外では京都府洛西(らくさい)の市街地、盛岡市河川敷、尼崎市の宮前公園、姫路市の市川美化センター、たつの市の中川原公園などでも繁殖が確認されている。

ササゴイは河川や湖沼周辺の神社林、雑木林などで繁殖してきたが、ササゴイの生息地である水辺周辺は人間の生活圏の近くであるため、営巣地伐採、河川の護岸工事による狩場の消滅などの各種開発の影響を受けやすい。そのため繁殖地を探した個体が市街地周辺に残された狩場となる広めの河川、営巣木となる大木が比較的残りやすい公園や街路樹といった環境で繁殖をすると考えられる。

4. 岡崎市の市街地の繁殖状況



本市における主なササゴイの観察場所

本市でササゴイが主に観察される場所は上記の簡易地図の通りである。市内の公園を利用し、中心部を流れる乙川を狩りの拠点にしている。営巣場所の公園にはササゴイの繁殖に都合がよい大木が複数存在し、狩場も比較的近くにあるのでよい環境なのだと考えられる。また地元のバードウォッチャーによると一部個体が周辺の神社林で繁殖行動らしきものを確認したという情報もある。またこれら以外にも岡崎東公園など営巣地から離れた場所でも確認されているが多くは巣立ち後の若鳥であった。

繁殖が確認された公園以外にはササゴイが好みそうな大きな営巣木や緑地は限られおり、今後営巣地が使われなくなるような状態になれば、個体の消滅や新たな営巣地として選ばれた公共施設などとのトラブルも考えられる。

5.各コロニーの状況

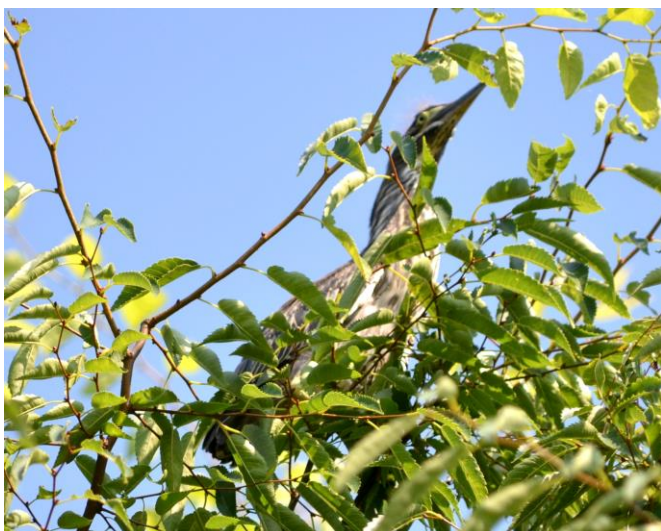
①籠田公園



籠田公園入口。奥の木で繁殖する。



営巣木周辺ササゴイ。



巣立ち間近のササゴイ。

現在、市内のササゴイのほとんどがここで繁殖している。公園の入り口に8営巣、周辺に

3 営巣を確認している。

元の繁殖地であったシビコのすぐ隣にあり、ここも狩場の乙川からもほど近くであり、営巣に適した大木もあるため営巣場所として選ばれたと考えられる。

2016年6月18日現在、幼鳥を7羽確認し、ほぼ親と変わらない大きさに成長している。また抱卵中や新たに営巣を始めようとしているペアも観察した。

また7月8日には幼鳥が8羽確認された。

当コロニーを観察に来る方や岡崎野鳥の会の方のお話によるとシビコから拡散した個体の多くがここで営巣を開始し、去年は今以上のコロニーの数があり、今年に入りいくつかの巣が撤去されたとのこと。

②シビコ西広場



シビコ西広場。



シビコの巣。幼鳥は確認されていない。

籠田公園から西に 200m の広場で、当地も乙川に近く、高い大木が複数あるためかつては多くのササゴイで賑わい、現在でも少数が見られる。

かつて市内のほぼ全てが繁殖していた当地は現在4つの巣が確認され、2巣が利用されているにすぎない。5月下旬に確認したときは抱卵されていたが、6月中旬では幼鳥は確認されず、別の場所で巣を用意していたので失敗したと思われる。今後ここで繁殖が継続されるかは未知数である。

③岡崎公園



かつて営巣されていた営巣地周辺。

距離的には最も乙川に近い当地も高木が存在しているので繁殖に適した環境といえ、以前は営巣地として機能していた。

しかしながら当地では去年までの数年間に営巣していたが今年の営巣数が 0 になった。公園南側の食事処周辺で繁殖していたが、営巣場所周辺で伐採があったのでおそらくそれが原因で繁殖地として使用されなくなったと思われる。今後再び当地が利用されるかは不明。

6.各コロニーの問題点

①籠田公園

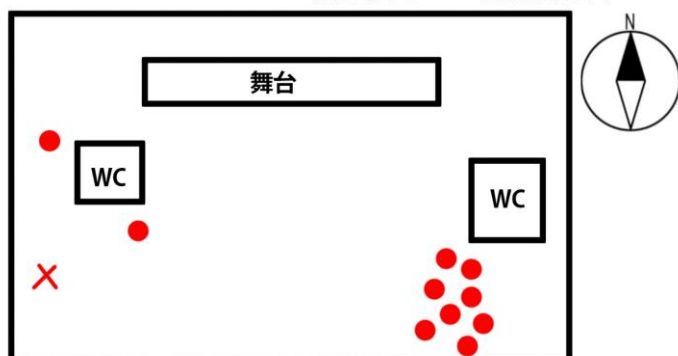


コロニー周辺。糞で汚れている。



同上。食べ残しもあり、異臭がする。

籠多公園コロニー簡易見取り図



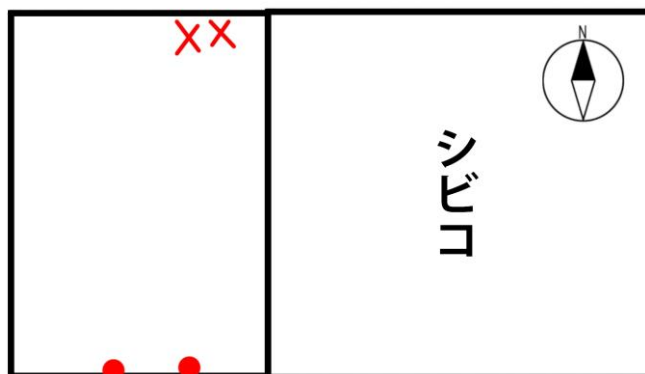
籠田公園内の営巣場所

営巣場所は公園南側に集中している。巣立ち間近の幼鳥は南側に4羽、西側トイレ裏3で羽確認した。

当公園は康生町の繁華街中心ということもあり、家族連れが訪れ、通行人も頻繁に通行する。鳴き声による騒音、糞による糞害、餌の食べ残しと糞による異臭が問題になっている。公園の管理者は糞や食べ残しを清掃してくれているもよう。

②シビコ西広場

シビココロニー簡易見取り図



シビコ広場の営巣場所

当地はデパート横の広場で、隣に図書館もあるため通行人も通るためか、カラーコーンが配置されているが巣がない場所であるため、上手く機能されているとは言い難い。

営巣数も籠田公園と比較して少ないため、糞害、騒音などの問題は大きくない。今後当地が繁殖地して機能するかは未知数である。

③岡崎公園

現在、繁殖地として利用されていない当地には渡来は確認されておらず、過去の記録から池に餌を捕りにくる個体が稀に現れる程度なので問題は発生してはいない。

3.保全策

①籠田公園

当地で営巣が確認されている場所は公園出入り口周辺、西側道路に面しているため、人の通りが激しい。カーコーンは設置されていないため、営巣場所周辺に設置することが望まれる。西道路側、一部公園内の巣は公園利用者に影響を与えやすいため、撤去する場合はそちらを撤去するようにする、あるいはネットなどを貼って汚物が下まで落下しないようにするなどの対策が考えられる。南側もコンクリートタイルを剥がして汚れが目立たないようにする、ネットを貼り汚物落下を軽減するといった対策が考えられる。また繁殖期は地元の方の理解を得るためにカーコーン設置のみならず、本種の保全に対するチラシを公園内に貼り付けるなどの告知も必要であると考えられる。

②シビコ西広場

現状、当地は繁殖地としての規模が小さいため問題は大きくない。幼鳥の成長過程を観察しつつ、利用者に注意を呼びかける。営巣環境自体は籠田公園とそれほど違いが見受けられないので、万が一、籠田公園が利用できなかつたことも踏まえて現在の環境を維持していかなくてはならない。

③岡崎公園

当地での営巣が確認されなくなったが、今後営巣が開始される可能性は十分にある。当地は全国から観光客やイベントなどで来訪客が多く訪れるので他二つの営巣地以上に迅速な対応が求められる。文化遺産に対する糞害が発生しないように上記 2 つの営巣地を保全に当地で繁殖した場合は撤去するといったことも考えられる。

●まとめ

ササゴイは現在、環境省のレッドデータには掲載されていないものの都道府県や市毎のレッドデータではリストアップされているところもあり、岡崎でも準絶滅危惧種に指定されている。県内では巣が撤去されたところもあり、今年も当地でも卵や雛がいない巣が撤去されたようなので今後も安心して繁殖できるとは限らない。人と自然が間近に共存できる貴重な場所であるため、早急に対策を練っていききたい。